

# 中国要因に振り回される オーストラリア経済

これまでオーストラリア経済は、中国の旺盛な資源需要により大いに恩恵を受けてきた。しかし、最近の中国の景気減速懸念は、今後のオーストラリア経済の見通しに影を落としている。オーストラリア政府は、中国や資源に過度に依存した経済構造を変える政策に取り組んでいるが、これは容易ではない。オーストラリア経済は今後も中国に振り回される状況が続くだろう。

オーストラリアの株式市場は米国が量的金融緩和第3弾(QE3)を開始した2012年秋頃から上昇基調となり、豪ドル相場も高水準で推移してきた。

しかし、2013年春頃を起点として下落基調に転じている。下落後の動きを詳細にみると、とりわけ中国の景気悪化を示す指標が発表された日に株価、豪ドル相場は急落している。

具体的には、①中国の2013年1～3月期の実質GDP成長率が市場予想を下回る水準となった4月15日、②5月の製造業PMI(速報値)が7カ月ぶりの低水準となった5月23日、③6月の製造業PMI(速報値)が5月の水準より低下し、中国の短期市場金利(SHIBOR)が急上昇した6月20日である(図表1)。

この背景には、以下に示すとおり、オーストラリア経済が中国の影響を大きく受けるようになったことがあるとみられる。

●図表1 株価、豪ドル相場の騰落率

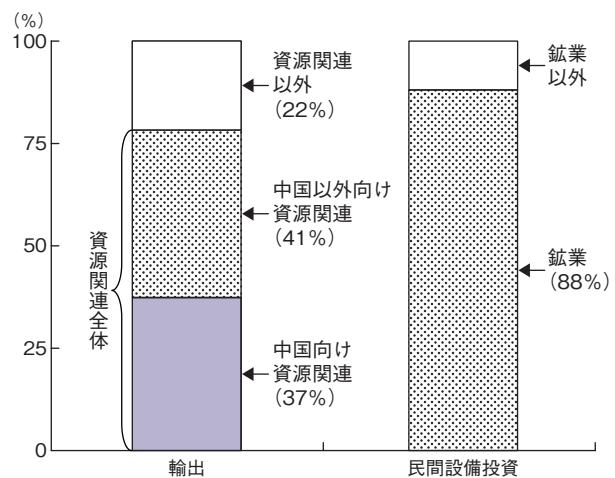
	株価	豪ドル相場
①4月15日 ：中国の1～3月期の実質GDP成長率発表	▲0.98	▲1.02
②5月23日 ：中国の5月の製造業PMI(速報値)発表	▲1.97	▲1.60
③6月20日 ：中国の6月の製造業PMI(速報値)発表等	▲2.02	▲2.58

(資料) オーストラリア連邦準備銀行、オーストラリア証券取引所

## オーストラリア経済を支えてきた 中国の資源需要

これまでオーストラリア経済は、中国の資源需要の拡大により大いに恩恵を受けてきた。まず輸出面をみると、2005～12年のオーストラリアの輸出増加分のうち、資源関連の割合は約8割を占めており、そのうち4割近くは中国向けとなっている(図表2左)。すなわち中国の資源需要の拡大が、オーストラリア

●図表2 輸出、民間設備投資の増加額の内訳



(注) 1. 資源関連は、燃料及び原材料の合計。  
2. 2005～12年の輸出、民間設備投資の増加額の内訳。  
(資料) オーストラリア統計局、国際連合「UN Comtrade」

の輸出を押し上げてきたと言える。

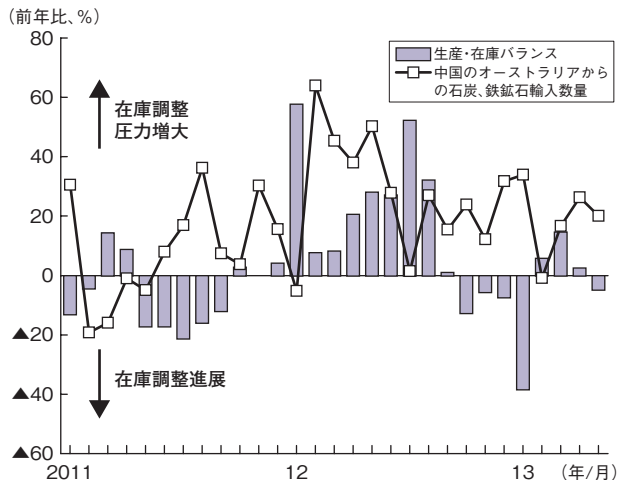
さらに、こうした資源関連分野の輸出拡大に伴い、オーストラリアの民間設備投資も拡大した。輸出と同様に、2005～12年のオーストラリアの民間設備投資の増加額を鉱業部門と非鉱業部門に分けてみると、鉱業部門が9割近くを占めており、これが設備投資全体の増加をけん引してきたことが分かる(図表2右)。このように、中国の景気拡大に伴う資源需要の高まりは、オーストラリアの輸出、ひいては民間設備投資を拡大させ、景気を押し上げてきたといえよう。

## 中国の鋼材在庫の動向に左右される オーストラリアの資源輸出

オーストラリア及び中国の通関統計を基に、オーストラリアの中国向け資源関連輸出の内訳をみていくと、鉄鉱石と石炭が約7割と大部分を占めている(2012年)。この二つは、鋼材の主な原材料であり、オーストラリアの資源輸出は中国の鋼材生産・在庫の状況に大きく左右されると考えられる。実際、中国の鋼材の生産・在庫バランスとオーストラリアからの鉄鉱石・石炭輸入の関係を見ると、鋼材の在庫が積み上がり、調整圧力が高まる過程で、輸入が減少し、逆に在庫調整が進むとともに輸入が増加するという関係が見てとれる(図表3)。

中国では、2012年10～12月期にいったんは在庫調

●図表3 中国の鉄鋼生産・在庫バランスとオーストラリアからの原料輸入



(注)生産・在庫バランスは、「在庫数量の前年比(%) - 生産数量の前年比(%)」。  
(資料)中国鋼鉄工業協会、中国海関総署

整が進んだものの、12月に政府が打ち出した「都市化推進」の方針を受けて鋼材需要の拡大に対する企業の期待が過度に高まった。その結果、2013年1～3月期以降の生産調整が不十分に終わったことから、在庫調整が長期化している。

こうした状況下で、先述した中国の5月、6月の製造業PMI(速報値)はいずれも市場予測を下回る水準であった。これが中国における生産・投資の不振や、その結果として起こる鋼材の在庫調整の長期化、さらにはオーストラリアの対中資源関連輸出の下ぶれリスクを投資家に意識させ、前述の株価や豪ドル相場の急落につながったとみられる。

## オーストラリア経済は資源依存から 脱却することができるのか

ここにきて、シャドーバンキングを巡る金融市場の混乱などを背景に、中国経済の先行き不透明感が強まっており、オーストラリア経済の中国経済への依存度が高まっている状況が懸念されるようになってきている。このような状況の中で、2013年6月末に再任されたラッド首相は、再任後の演説において、中国依存から脱却し多様化を図るべきと発言した。

同首相は、多様化に向けた政策の一つとして、2012年10月に前ギラード首相が発表した「アジアの世紀におけるオーストラリア白書(アジア白書)」をベースに、インドネシア、中国、インド、日本及び韓国の5カ国との経済関係強化に関する戦略を策定すると表明しており、すでにインドネシアについては、7月5日に、2025年までの教育、貿易・投資拡大などの面での関係強化策を打ち出している。

こうした戦略は、中長期的にオーストラリアの経済パートナーの多様化につながるとみられるが、現段階では具体的な方策に乏しく、中国に大きく依存したオーストラリアの経済構造が短期間で大きく変化するとは期待しにくい。今後もしばらく、中国経済を巡る不透明感がオーストラリアの不安定要因となる状況が続くだろう。■

みずほ総合研究所 アジア調査部

主任研究員 菊池しのぶ

shinobu.kikuchi@mizuho-ri.co.jp